



【 「どうぞ。」「ありがとう。」 】

- 先日、私は1年生の教室の授業に出て、ノートを配りました。そのとき、私が子供たちに次のように言いました。
- 「名前を呼ぶので、名前を呼ばれたら、『はい』という返事をして、ノート取りに来てください。」
- ほとんどの子供が「はい。」と返事をして取りに来て、ノートを受け取ると席に戻りました。大変よい返事でした。2学期になって、**1年生の子供たちが本当に落ち着き**、私は嬉しく思いながらノートを配っていました。
- 約半数が終わった頃でしょうか。私が「井波さん（仮名）。」と呼びました。すると、井波さんは、「はい。」と返事をして私の方に来ました。私がノートを渡すと、井波さんから、ある言葉がでました。それは、「**ありがとう。**」という言葉です。
- 私は感心すると同時に、自分が恥ずかしくなりました。小さな子供が「ありがとう。」と言ってもらっているのに、私は黙って渡していたのです。一言、「どうぞ。」という言葉を書いて渡すべきでした。
- 井波さんの「ありがとう」発言をきっかけに、その後、私は「**どうぞ。**」と言ってノートを渡しました。そして、「**どうぞ。」「ありがとう。**」という言葉が繰り返されました。
- 実は、私は担任時代、物を渡す・もらう際、「どうぞ」「ありがとう」を言うことを学級の子供たちに指導していました。今、そのことをすっかり忘れ、井波さんの言葉で思い出したのです。**子供から教えられる**とは、こういうことなんですね。
- 私は、ずっと「**教師の先生は子供である。**」と思ってきました。また、第11代校長：四辻先生の教育方針の一つに、「**小さな事実**に**大きな意味がある。**」がありました。この井波さんの「ありがとう」と言った小さな事実、まさに大きな意味を見いだしたいものだと思つて改めた日でした。

